

平成27年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔 医学部（医学科） 〕

プログラムの名称（和文）	医学プログラム
（英文）	Program for Medicine
1. 取得できる学位 学士（医学）	
<p>2. 概要</p> <p>本プログラムは、医療の担い手としてふさわしい倫理観と人間性（思いやり、共感、献身、使命感）を備えた人材、高度な医学知識・技術を習得し、課題解決のために自ら研究し、地域の保健・医療の充実とともに国内外の医学水準の向上に貢献する人材を育成することを目指す。</p> <p>本プログラムは目的別の8つの科目群よりなる。教養科目では大学での学問研究や社会での活動の基盤を形成し、医学導入科目では医学・医療への理解と関心を深め、医学を学ぶための基礎知識を修得する。医学基礎・総論科目では臨床医学を学ぶにあたって必要な基礎医学知識を総合的に学ぶ。1年次は主に教養科目を履修し、医学導入科目および医学基礎・総論科目の履修も開始する。2年次は医学導入科目および医学基礎・総論科目を履修し、3年次では診療を行うために必要な臨床医学の知識を総合的に学ぶ総合医療科目を、4年次前半には社会医学科目を履修する。4年次後半には、講義等の他のカリキュラムはすべて休止し、4か月間学内の各研究室に配属されて実際の研究活動に従事する医学研究実習を行う。医師としての態度、倫理、コミュニケーション能力、チーム医療、診察技能などを修得するプロフェッショナルリズム教育のための科目は1～4年次前半までを通して継続的に行う。5～6年次には、大学病院等の医療現場にて臨床実習を行う。臨床実習では、医療スタッフの一員として患者の実診療に参加する診療参加型実習を主体として行う。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>医学科において、卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 豊かな人間性と幅広い教養を持ち、人の命と健康を守る医師としての職責を自覚している 2) 専門的医学知識を修得しており、基礎的診療能力を有する 3) 医療・保険制度を理解し、地域および行政と連携して地域医療に貢献する能力を有する 4) 患者や家族、同僚と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を有する 5) 実践的な英語能力、国際交流能力を有する 6) 自ら課題をみつけて、科学的な思考力と判断力で解決する能力を有する 7) 生涯にわたって向上し続ける意欲と後進を育成する姿勢を有する <p>6年間にわたる必修科目すべての履修と所定の単位修得を通してこれらの能力を身につけ、卒業試験に合格した者に対し、学士（医学）の学位を授与する。</p>	
<p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 入学後早期から、実際の医療現場に接する実習を行い、医師としての豊かな人間性を涵養し、プロフェッショナルとして人々の健康を守る使命感・責任感の形成を目指す。 2) 複数の講座、診療科が協働して構成する統合的な講義体系を組み、専門分野の概念にとらわれない総合的な知識の習得を目指す。 3) 臨床実習では診療参加型実習を行い、知識・技能・態度を実践的に修得させる。また、実際の患者との 	

コミュニケーションをとるなかで、患者と良好な人間関係を築く技能を修得させる。

- 4) 低学年のうちからグループ学習を取り入れ、チームの一員としての責任を果たしチームに貢献する姿勢を身につけさせる。
- 5) 4年次の一定期間、学生を学内外の研究室に配属して医学に関する研究活動に従事させ、医学研究の意義と重要性を理解するとともに、自らも医学の発展に寄与する気概を養う。また、この期間は海外の研究施設での研究も選択可能とし、研究を通して国際交流能力の向上を図る。
- 6) 全学生に、県内各地の医療機関にて地域医療実習を行わせることで、地域の抱える保健・医療上の問題と医師の役割を考えさせる。
- 7) 複数科の授業科目において問題基盤型のPBL テュートリアルを取り入れ、事象に基づいて自ら課題を設定し、討論を通して各自が自分で学ぶことを決めて学ぶ自己開発型の学習姿勢を習得させる。
- 8) 3年次に医学を話題とした英語での討論や、臨床場面における患者との英語での会話練習などを行って実践的な英語力を培い、英語によるコミュニケーション能力を修得させる。

5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時） 医学部医学科の学生として入学していること

6. 取得可能な資格

医学部医学科を卒業することで（卒業見込みを含む）、医師国家試験の受験資格が与えられる。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。（履修表を添付する。）

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

卒業論文は課さない。

10. 責任体制

※別紙5を参照すること。

教養教育科目履修基準表

医学部医学科

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修年次(注1)																
						1年次		2年次		3年次		4年次										
						前	後	前	後	前	後	前	後									
教養 科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○																
	平和科目	2		2	選択必修	○	○															
	パッケージ別科目	6	選択したパッケージから	2	選択必修	○	○															
	外国語科目	英語(注2)	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	必修	○															
				コミュニケーション基礎Ⅱ	1			○														
			コミュニケーションⅠ	コミュニケーションⅠA	1	必修	○															
				コミュニケーションⅠB	1		○															
			コミュニケーションⅡ	コミュニケーションⅡA	1	必修		○														
				コミュニケーションⅡB	1			○														
			コミュニケーションⅢ	コミュニケーションⅢA	1	選択必修			○	○												
				コミュニケーションⅢB	1				○	○												
				コミュニケーションⅢC	1				○	○												
			上記3科目から2科目																			
	初修外国語(ドイツ語, フランス語のうちから1言語選択)	ベーシック外国語Ⅰから2科目	4	1	選択必修	○																
		ベーシック外国語Ⅱから2科目	1	1			○															
	情報科目(注3)	情報活用基礎	2	2	選択必修	○																
		情報活用演習		2			○															
	領域科目	4	すべての領域から	1又は2	選択必修	○	○															
	健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○															
	基盤科目(注4)	8	細胞科学	2	必修	○																
生物学実験法・同実験			2	○																		
医療従事者のための心理学			2	○																		
医療行動学			2			○																
2		初修物理学	2	選択必修(注5)	○																	
		初修化学	2		○																	
		初修生物学	2		○																	
4		統計学A	2	選択必修	○																	
		基礎微分積分学	2		○																	
		基礎線形代数学	2			○																
	生態学	2			○																	
上記4科目のうちから2科目																						
教養教育科目計		44																				

- 注1: ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。
- 注2: 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(8単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧に掲載の教養教育の英語に関する項を参照のこと。
- 注3: 1年次前期開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得出来なかった場合のみ、後期開設の「情報活用演習」を履修することができる。
- 注4: 履修基準表で指定されていない基盤科目の単位を修得した場合、又は履修基準表で指定された基盤科目の選択必修科目のうち6単位を超えて修得した場合は、2単位まで領域科目を履修したものとみなす。
- 注5: 「初修物理学」、「初修化学」及び「初修生物学」から、履修すべき初修科目を医学科において指定する。指定された科目以外の初修科目を修得しても卒業に必要な単位にはならない。

専門教育科目履修基準表

医学部医学科

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目	単位数	履修指定	履修年次														
						1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次				
						前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後			
専門教育	専門関連科目	14	医学研究序論	2	必修	2														
			生命・医療倫理学	2			2													
			専門教養・国際協力論	2				2												
			コミュニケーション学	2				2												
			放射線生物学	2				2												
			人類遺伝学	2				2												
			医学英語	2						2										
	専門関連科目計			14		2	4	6		2										
	専門科目	138	人体構造学	14	必修	14														
			組織細胞機能学	10					10											
			生体反応学	9					9											
			病因病態学	6						6										
			器官・システム病態制御学Ⅰ	12						12										
			器官・システム病態制御学Ⅱ	12						12										
			全身性疾患制御学	9						9										
			社会医学	9								9								
			症候診断治療学	9								9								
			臨床実習入門プログラム	4									4							
			医学研究実習	10										10						
			臨床実習・臨床実践学	24													24			
アドバンスト医学実習			10														10			
専門科目計			138		33		39		32		34									
専門教育科目計				152																

卒業要件	単位数
教養教育科目	44
専門教育科目	152
専門関連科目	14
専門科目	138
合計	196

医学プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 大学での学問研究や社会活動の基本となる知的能力	各評価項目について、他の項目と関連付けて応用的に説明することができる。	各評価項目について、他の項目と関連付けて説明することができる。	各評価項目について、基本的な事項を説明することができる。
	(2) 人体の構造に関する知識・理解			
	(3) 組織、細胞の機能に関する知識・理解			
	(4) 生体の反応に関する知識・理解			
	(5) 病因・病態に関する知識・理解			
	(6) 器官・システムとその破綻による疾患に関する知識・理解			
	(7) 全身性疾患とその制御に関する知識・理解			
	(8) 健康政策、社会医療システムに関する知識・理解			
能力・技能	(1) 問題解決能力	解決すべき問題点を発見して重要性・必要性に照らして順位づけし、解決する具体的な方法を発見し、問題を解決できる。	解決すべき問題点を自ら発見し、重要性・必要性に照らして順位づけできる。	解決すべき問題点を自ら発見できる。
	(2) 研究遂行能力(立案、データ解析、総括)	研究計画を立案し、その計画の意義や医学の中での位置づけを説明できる。データを収集して適切な方法で解析処理を行い、結果を解釈できる。得られた結果を考察し、その結果から新たな研究計画に発展させることができる。	研究計画を立案し、その計画の意義や医学の中での位置づけを説明できる。データを収集して適切な方法で解析処理を行い、結果を解釈できる。	研究計画を立案し、計画に基づいてデータを収集することができる。
	(3) 基本的診察手技	状況に応じて適切な診察手技を選択し、必要な所見を正しく無駄なく得ることができる。	基本的な診察手技を適切に行い、所見を正しく得ることができる。	基本的な診察手技について、やり方を示すことができる。
	(4) コミュニケーション能力	適切なコミュニケーションによって、患者やその家族との良好な人間関係を構築できる。	コミュニケーションによって、患者やその家族と意思を疎通することができる。	基本的なコミュニケーション技法を用いることができる。
	(5) 問診技能	医療面接によって診療に必要な情報を要領よく正確に収集し、必要なものを取捨選択して要約し、簡潔な病歴を作成できる。	医療面接によって、主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビューなどの病歴情報のうち必要なものを要領よく正確に収集することができる。	医療面接によって、主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビューなどの病歴情報を収集することができる。

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
	(6) 診療録記載	収集した診療情報から問題点を抽出し、日常の診療、データ分析、治療計画等を問題点を基軸として記載する問題志向型の診療録を作成することができる。	診療経過を主観的所見、客観的所見、評価、計画に分けて記載できる。	問題志向型の診療録を書くことの重要性を説明できる。
	(7) プレゼンテーション能力	診療情報のうち呈示すべき情報を選別し、定められた時間内に簡潔・明瞭に呈示することができる。また、文書で診療情報の提供を簡潔・適切に行うことができる。	診療情報のうちから呈示すべき情報を選別し、口頭で呈示することができる。	診療情報のうち、呈示すべき情報が何かを述べることができる。
態度	(1) 共感と配慮	患者の痛みや病苦に共感・配慮し、患者や家族の立場にたつて診療を遂行することができる。	患者の痛みや病苦に対して共感の姿勢をとり、配慮を示すことができる。	患者の痛みや病苦に対して共感や配慮を示すことの重要性を述べることができる。
	(2) プロフェッショナリズム	自分の限界を認識し、他者からのフィードバックを取り入れて自己を向上させることができる。	自分の役割に医療者としての責任感を持ち、信頼できる方法で仕事を遂行することができる。	医師に求められる公益性、道徳性、専門性を理解し、医師がとるべき行動・態度を述べるができる。
	(3) チーム医療・他者との協働	同僚、上級医、コメディカル等のスタッフとコミュニケーションをとり、情報を共有し、協力関係・信頼関係を構築できる。	同僚、上級医、コメディカル等のスタッフとコミュニケーションをとり、情報を有効に共有できる。	同僚、上級医、コメディカル等のスタッフとコミュニケーションをとることができる。
総合的な	(1) 統合的診療能力	上記の知識・理解、能力・技能、態度・プロフェッショナリズムのすべてを統合し、さまざまな診療場面において、自らの判断で診療を遂行することができる。	上記の知識・理解、能力・技能、態度・プロフェッショナリズムのすべてを統合し、基本的な診療場面において、自らの判断で診療を遂行することができる。	上記の知識・理解、能力・技能、態度・プロフェッショナリズムのすべてを統合し、診療場面において、指導教員の助言、補助の下に診療を遂行することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

医師としての職務を的確に行うためには、まず一人の成熟した社会人として幅広い教養を備え、医学的問題を幅広い視野からとらえる能力が必要である。そのためには、自然・社会・人文科学的な視点から総合的に物事を考えられる素養が望まれる。さらに、化学、物理学、数学、統計学など、医学を学ぶうえで基礎となる教養的基盤を早期に確立することも必要である。また、化学、物理学など、高校で学ばなかった科目があることで専門教育に支障をきたさないよう、高校での未修得科目に対するサポート教育も必要である。教養教育は、これらの素養を得ることを目的として、主に1年次において行う。しかし、高学年になり、医師となる者としての自覚がある程度育ってから教養の重要性を再認識する面もあり、2年次以降も専門教育と並行して教養教育を継続する。

医学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年		5年		6年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
大学での学問研究や社会活動の基本となる知的能力	教養ゼミ(◎)	平和科目(○)										
	平和科目(○)	平和科目(○)										
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)										
	外国語科目(◎)	外国語科目(◎)	外国語科目(○)	外国語科目(○)								
	情報科目(◎)											
	領域科目(○)	領域科目(○)										
	健康スポーツ科目(○)	健康スポーツ科目(○)										
	細胞科学(◎)											
	生物学実験法・同実験(◎)											
	医療従事者のための心理学(◎)											
初修物理学・化学・生物学(○)												
統計学A・基礎微積分学・基礎線形代数学・生態学(○)	統計学A・基礎微積分学・基礎線形代数学・生態学(○)											
知識・理解	人体の構造に関する知識・理解	人体構造学(◎)	人体構造学(◎)	人体構造学(◎)	人体構造学(◎)							
	組織、細胞の機能に関する知識・理解			組織細胞機能学(◎)	組織細胞機能学(◎)							
	生体の反応に関する知識・理解			生体反応学(◎)	生体反応学(◎)							
	放射線生物学(◎)											
	病因・病態に関する知識・理解					病因病態学(◎)						
	器官・システムとその破綻による疾患に関する知識・理解					器官・システム病態制御学Ⅰ(◎)	器官・システム病態制御学Ⅰ(◎)	症候診断治療学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)
	アドバンスト医学実習(◎)					器官・システム病態制御学Ⅱ(◎)	器官・システム病態制御学Ⅱ(◎)					
	全身性疾患とその制御に関する知識・理解					全身性疾患制御学(◎)		症候診断治療学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)
	アドバンスト医学実習(◎)											
	健康政策、社会医療システムに関する知識・理解			専門教養・国際協力論(◎)				社会医学(◎)				
能力・技能	問題解決能力							症候診断治療学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)
	アドバンスト医学実習(◎)											
	研究遂行能力(立案、データ解析、総括)	医学研究序論(◎)							医学研究実習(◎)			
	基本的診察手技							臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)
	アドバンスト医学実習(◎)											
	コミュニケーション能力		コミュニケーション学(◎)			医学英語(◎)	医学英語(◎)	臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)
	アドバンスト医学実習(◎)											
	問診技能							臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)
アドバンスト医学実習(◎)												
診療録記載								臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	
アドバンスト医学実習(◎)												
プレゼンテーション能力								臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	
アドバンスト医学実習(◎)												
態度	共感と配慮	教養ゼミ(◎)	医療行動学(◎)			器官・システム病態制御学Ⅰ(◎)		臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)
	アドバンスト医学実習(◎)											
	プロフェッショナリズム	教養ゼミ(◎)	医療行動学(◎)	器官・システム病態制御学Ⅰ(◎)		症候診断治療学(◎)	臨床実習入門プログラム(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	
アドバンスト医学実習(◎)	医療従事者のための心理学(◎)	生命・医療倫理学(◎)										
チーム医療・他者との協働	教養ゼミ(◎)	医療行動学(◎)					症候診断治療学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	
アドバンスト医学実習(◎)												
統合的診療能力								臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	臨床実習・臨床実践学(◎)	
アドバンスト医学実習(◎)												

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

医学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
青山 裕彦	教授	5110	解剖学及び発生生物学	aoyamah@hiroshima-u.ac.jp
酒井 規雄	教授	5140	神経薬理学	nsakai@hiroshima-u.ac.jp
今泉 和則	教授	5130	分子細胞情報学	imaizumi@hiroshima-u.ac.jp
松浦 伸也	教授	5809	ゲノム障害医学研究センター 放射線ゲノム疾患研究分野	shinya@hiroshima-u.ac.jp
神谷 研二	教授	5842	ゲノム障害医学研究センター 分子発がん制御研究分野	kkamiya@hiroshima-u.ac.jp
烏帽子田 彰	教授	5165	公衆衛生学	karasu-karasu@hiroshima-u.ac.jp
浅野 知一郎	教授	5135	医化学	tasano@hiroshima-u.ac.jp
坂口 剛正	教授	5155	ウイルス学	tsaka@hiroshima-u.ac.jp
安井 弥	教授	5145	分子病理学	wyasui@hiroshima-u.ac.jp
木原 康樹	教授	6829	循環器内科学	ykihara@hiroshima-u.ac.jp
松原 昭郎	教授	5240	腎泌尿器科学	matsua@hiroshima-u.ac.jp
工藤 美樹	教授	5260	産科婦人科学	yoshkudo@hiroshima-u.ac.jp
田中 純子	教授	5160	疫学・疾病制御学	jun-tanaka@hiroshima-u.ac.jp
栗井 和夫	教授	5255	放射線診断学	awai@hiroshima-u.ac.jp
田妻 進	教授	5461	総合診療部	stazuma@hiroshima-u.ac.jp

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））